

平成 29 年 2 月 6 日

もっと現場を知る！職員短期派遣研修報告書

所属名	農林水産部 農林水産総務課	氏名	向田 望人
派遣先 団体名	特定非営利活動法人 もりふれ倶楽部		
<p>① 研修の日時</p> <p>8/7 (日) 里山自然塾(ふるさと森林公園)</p> <p>9/4 (日) 里山自然塾(ふるさと森林公園)</p> <p>9/20(火) 雲南西小学校</p> <p>9/27(火) 亀嵩小学校</p> <p>10/2(日) 里山自然塾(ふるさと森林公園)</p> <p>計5日間</p> <p>② 研修の内容</p> <p>○8/7里山自然塾(ふるさと森林公園)</p> <p>桜の木の枝を使い、小型の椅子を製作する作業の補助をしました。木の枝は非常に固く、ノコギリで切ったり、ビスの穴を開けるのには難儀しました。参加者の皆さんは、形状にあわせて枝をうまく組み合わせ、思い思いの椅子を製作されました。完成した椅子は、小さいながらも丈夫なもので、人間が座ることができるほど完成度が高いものもありました。</p> <p>○9/4里山自然塾(ふるさと森林公園)</p> <p>米粉を使って作った生地を竹の容器に流し込み、ケーキを焼きました。材料自体は簡素なものでしたが、竹を割って加工したり、火加減を見ながら焼いたりという作業を通して、身近にある素材を生かして様々なことができることに気づかされました。出来上がったケーキは、香り高いクロモジのお茶と一緒においしくいただきました。</p> <p>○9/20雲南西小学校</p> <p>前半は、目隠しをして班毎に一行で動き、身体全体で自然の匂いや音を感じる「ネイチャーゲーム」を行いました。あいにくの雨のため体育館内での活動でしたが、普段はあまり意識しない雨の音や風を感じることができました。参加者の小学生の方々もとても楽しそうにゲームに参加していました。</p> <p>後半は、「音を絵で描く」活動を行いました。大人にはとても難しい作業のように思いましたが、小学生の方々も躊躇することなく真剣に取り組んでおられました。</p>			

○9/27亀嵩小学校

島根県の森林の概要や、間伐を行うことの意義などを前半で学びました。公開授業の一環として、保護者の方も一緒に活動に参加されました。

スライドを使った説明は、小学生だけでなく大人も一緒に聞いてよく分かる内容でした。単に森林のことだけでなく、地域のことを学ぶ機会としても有効な手段です。

後半は屋外で「ネイチャーゲーム」を行いました。目隠しをして自分が触れた木を当てるというゲームです。皆さん親子で楽しそうに参加されていました。その後、学校の裏山に整備された学校林の散策を行いました。



○10/2里山自然塾（ふるさと森林公園）

参加者は3班に分かれ、園内でキノコ探しを行いました。ヘビが何よりも嫌いな自分にとっては、衝撃的な散策でした。

その後、講師の方から食べられるキノコと食べられないキノコの講義を受け、図鑑を使って自主鑑定を行いました。大量に収穫したキノコも鑑定の結果、随分少なくなっていました。食べられるキノコは味噌汁にしておいしくいただきました。





③ 研修の感想

ほぼ毎日開催される頻度の多さと県内全域に渡る活動範囲の広さに、まず驚かされました。同じ学校を複数回訪問して段階的に講義を実施するなど、一過性のイベントではない地に足の着いた活動をされているのが印象的でした。毎回の準備作業に多大な労力や時間がかかることを考えると、もりふれ倶楽部さんの森林保全活動に対する意気込みが強く伝わりました。

活動は講義だけではなく、必ず何らかの体験とセットになっており、自分が体感したことと講義の内容が結びつくように毎回工夫をされていると感じました。身近な題材や素材を使って活動されており、日常生活の中から森林保全を考えられるよう意識付けがされていました。

今回は、写真の撮影や作業補助に携わりましたが、人工林が形成されていった過程や間伐の大切さなどを参加者の方と共に学ぶことができました。森林保全の観点から島根県のことを考えるという貴重なきっかけをいただくことができました。

森林が県土の大部分を占める島根県においては、森林保全の取り組みは重要であり、県民の方から関心をもってもらうためにも、このような地道な取り組みを推進していくことが大切だと感じました。

終わりに、今回の研修で、丁寧にご指導いただいたもりふれ倶楽部の皆様に心から感謝を申し上げたいと思います。